

「電力・ガス基本政策小委員会制度検討作業部会 第一八次中間とりまとめ（案）」
に対する意見

2024年7月31日
一般社団法人 日本電機工業会

【意見1】

・該当箇所

電力・ガス基本政策小委員会制度検討作業部会 第一八次中間とりまとめ（案）

2. 2. 長期脱炭素電源オークション（2）第2回入札に向けた制度の見直し

P25. 2. 対象（d）揚水・蓄電池

・意見内容

蓄電池（あるいは類似の蓄電設備）において、同期発電機等の手段を具備し同期化力・慣性力を有するものについて、何らかのインセンティブないし優遇を設けていただきたい。

・理由

蓄電池において、同期化力・慣性力の機能を有するものについては、既存同期発電機の代替として、変動再エネ増加時の電力系統安定に寄与できるものとするため。

【意見2】

・該当箇所

電力・ガス基本政策小委員会制度検討作業部会 第一八次中間とりまとめ（案）

P26.（参考図 16）最低入札容量のまとめ

3. 既設火力のアンモニア・水素混焼にするための改修案件 最低入札容量5万キロワット

・意見内容

既設火力 GX 改修案件の対象容量を送電端設備容量5万KWから段階的に引き下げるべきである。

電源公平性の観点から、既設水力の大規模改修対象と同じ、3万kW以上として、

将来的には更なる引き下げを検討いただきたい。

また既設火力のGX改修案件について、早期実装促進されるよう、制度面で支援いただきたい。

・理由

既設火力に対するGX推進加速のため、また対象容量5万kW以上が障壁となり、対象外の既設火力のGX改修が鈍化し、CO2排出量の削減が進まないことを避けるため。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】電力・エネルギー部